

このたびは、ミドリ安全のFlatmet3をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を最後までお読みいただき、本書に従ってご使用ください。誤ったご使用をされた場合、重大な事故に結びつく恐れがあります。

本製品は、建設現場、工場や倉庫、車輛の上等の作業で作業者の頭部損傷を防止または軽減するために使用するものです。本製品は、厚生労働省が定める労働安全衛生法第42条の規則に基づく「保護帽の規格」に適合し製造されたもので、「飛来・落下物用」「墜落時保護用」の型式検定合格品として「労・検」ラベルが貼り付けられています。

これらの規格は、頭部の安全を確保するための最低基準を定めたものであって、自ずから保護性能には限界があります。従って、「労・検」のラベルは絶対的に安全を保証するものではありません。

さらに、本製品は防災用途や携帯性を考慮して収納可能な構造としています。ご使用にあたっては最大限の注意を払い、常に安全にご使用ができるように、この取扱説明書に従ってご使用ください。なお、お読みになった後は、本書を大切に保管してください。

「警告」や「注意」の意味と内容（安全上、大切なお知らせ）

警告：守らないと保護帽の性能を損ない、生命または頭部に重大な傷害を及ぼすことを意味します。






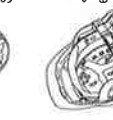



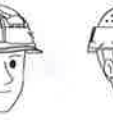



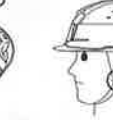






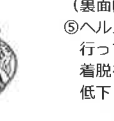
- 「飛来・落下物用」「墜落時保護用」を示す「労・検」ラベルが貼り付けてあることを確かめてください。
- この保護帽は、使用区分以外では使用しないでください。
- 保護帽をかぶって原動機付自転車を含むオートバイに乗車することは絶対にやめてください。保護帽は乗車用安全帽とは製造、設計、性能など目的と方法が全く異なります。
- 一度でも大きな衝撃を受けたものは、外観に異常がなくとも性能が低下しているため、使用せず廃棄してください。
- 保護帽に改造あるいは加工したり、部品を取り除いたりしないでください。保護性能が損なわれます。
- 保護帽着用時は、まっすぐ深くかぶり、あごひもを正しく締めてください。誤った着用すると事故のとき保護帽が脱げて重大な傷害を受ける可能性があります。
- 保護帽は使用環境や時間の経過により外観に変形等の異常が認められなくても、性能の低下が考えられます。使用期間内に交換してください。（購入後3年以内に交換してください。防災用途の場合は6年以内に交換してください。）
（注意：防災用途とは、災害時などの非常時のみに使用するもので、労働安全衛生規則に関わる場所で使用するものではありません。）

注意：守らないと保護帽の性能や機能に影響を与え、頭部に傷害を及ぼすことを意味します。

- ヘッドバンドは頭の大きさに合わせて調節して確実に固定してください。
- 防災用途の場合、緊急時に使用できるように、事前にヘッドバンドのサイズ調整をしておいてください。また、常に保管場所を把握しておいてください。
- ガソリン・シンナー・ベンジン等の有機溶剤は帽体を劣化させるため、保護帽の清掃には使用しないでください。
- 夏季の自動車内や暖房器具の近く等の50℃を超える場所や直射日光の当たる場所に置くと、熱や紫外線により材質が変色したり、変質や変形を起こし、性能が低下します。
- 組み立てや収納する際、帽体の隙間に手や指等を挟まないよう、十分注意してください。
- 防災用途として使用する場合、日常的に使用する機会がないため、定期的に点検をしてください。

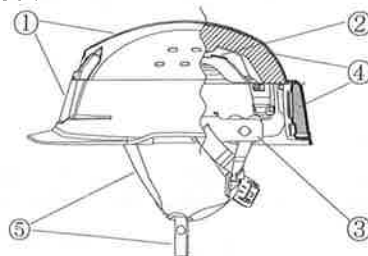
《保護帽点検・20のチェックポイント》 ※下記イラスト①～⑳は異常な状態を分かり易く誇張して表現しています。

～廃棄基準～

<p>① 縁に欠損又は亀裂のあるもの</p> 	<p>② 衝撃の跡が認められるもの</p> 	<p>③ すりすぎが多いもの</p> 	<p>④ 汚れが著しいもの</p> 	<p>【衝撃吸収ライナー】</p> <p>① 熱、溶剤等によって変形しているもの</p> 	<p>② 著しく汚れているもの</p> 	<p>③ きず、割れが著しいもの</p> 
<p>⑤ メーカーがあげた以外の穴があいているもの</p> 	<p>⑥ 表面がカサカサしたり粉を吹いている</p> 	<p>⑦ 着装体取り付け部に亀裂があるもの</p> 	<p>⑧ 著しい変色が認められるもの</p> 	<p>【着装体・あごひも】</p> <p>① 使用者が改造したものの</p> 	<p>② ハンモックが伸び又は著しく汚れているもの</p> 	<p>③ 縫い目がほつれているもの</p> 
<p>⑨ 帽体と着装体の取付け部に破損・減失等があるもの</p> 	<p>⑩ 変形しているもの</p> 	<p>⑪ ヘッドバンドが損傷しているもの</p> 	<p>⑫ 汗、油等によって著しく汚れているもの</p> 	<p>⑬ あごひもが損傷し又は著しく汚れているもの</p> 	<p>⑭ ハンモックが損傷しているもの</p> 	<p>⑮ 著しい変色や変形があるもの</p> 

1. 保護帽の構造および各部の名称

保護帽は帽体、着装体、あごひも、衝撃吸収ライナー等の部品により構成されています。これらの部品の一部でも性能が低下したり、または不足しますと危険を防止または軽減することができなくなります。



	名 称	備 考
①	帽 体	頭部を覆う、硬いかく(殻)体
②	着 装 体	ハンモック ヘッドバンド
③	衝撃吸収ライナー	保護帽を頭部に保持し、当りを良くして衝撃を緩和する部品
④	あごひも (耳ひも)	発泡スチロール製の衝撃を吸収するための部品
⑤		保護帽が脱落するのを防止するための部品

2. 使用区分と機能

本製品は、「飛来・落下物用」「墜落時保護用」として帽体の内側に厚生労働省の「型式検定合格品」を示す「労・検」ラベルが貼られています。「労・検」ラベルは、「保護帽の規格」に定める基準を満たしていることを示すものです。

使用区分	機 能
○ 飛来・落下物用	物体の飛来または落下による危険を防止または軽減するためのもの。
○ 墜落時保護用	墜落による危険を防止、または軽減するためのもの。(構築物や電柱等の高所からの墜落による危険までは防止できません。)

3. 使用前点検

- ① 「労・検」ラベルを確かめて、作業に合った区分の保護帽を使用してください。
- ② 「保護帽点検・20のチェックポイント」によって点検し、少しでも異常が認められる場合は使用しないでください。
- ③ 構成している部品に異常が認められた場合は使用せず、直ちに新しいものと交換してください。

4. 着用方法

- ① ヘルメットを「取扱方法」(裏面参照)を参考に完全に組み立ててください。
- ② まっすぐに深くかぶってください。
- ③ ヘッドバンドは頭の大きさに合わせて調節して確実に頭に固定してください。(裏面図参照)
- ④ あごひもは緩みがないようにあごの下でしっかり締めてください。(裏面図参照)
- ⑤ ヘルメットの着脱はホックでは行わず、ワンタッチバックルで行ってください。着脱を繰り返すとホックの保持力が低下して本来の保持性能が低下します。

5. 使用に当たった際の注意事項

- ① 本製品は、帽体を完全に組み立てた状態で頭部にかぶることで、本来の性能を発揮するように設計されています。組み立てが不完全な状態で使用したり、頭部にかぶる以外の使用は重大な事故につながりますので絶対にやめてください。
- ② 使用中は、あごひもを緩めたり、はずしたりしないでください。
- ③ 保護帽に物を入れたり、腰かけたり道具として使用しないでください。また、投げたり、落としたりしないでください。
- ④ ご自身でヘルメットに塗装したりしないでください。
- ⑤ ラベル、ステッカー、テープ等を貼付するときはアクリル系の接着剤を使用してください。
- ⑥ 溶接火花・薬品などによるやけどの恐れがある作業には使用しないでください。
- ⑦ 着用により皮膚にかぶれやかゆみが生じたら、直ちに使用をやめてください。
- ⑧ 使用環境温度は、-10℃～+50℃です。この温度範囲の環境で使用してください。この温度範囲以外の環境で使用すると、高温による変形をおこしたり、低温による強度の低下をおこします。

6. 保守・保管

- ① 帽体の汚れは必ず中性洗剤に浸した布を固く絞って拭きとり、きれいな水で洗剤を除去したのち、布で完全に拭きとってください。
- ② 室内の直射日光の当たらない、風通しのよい場所に保管してください。(0℃～+40℃)

7. 点検 (廃棄・交換)

保護帽は帽体、着装体(衝撃吸収ライナー)の全体のバランスによって保護性能を発揮します。衝撃や傷・磨耗、薬品、紫外線、高温や低温などは保護帽の強度を低下させますので、保護性能を確保するために《保護帽点検・20のチェックポイント》に従って使用前にはその都度必ず点検を実施してください。点検によって、少しでも異常が認められるものは使用せず、直ちに新しいものに交換してください。

8. 使用期間 (耐用期間)

外観に異常が認められず、《保護帽点検20のチェックポイント》に該当しない場合でも、下記を基準に交換をしてください。

着 装 体	購 入 後
ABS、PC、PE等の熱可塑性樹脂製の保護帽	購入後3年以内
	購入後1年以内
防災用ヘルメット(下記、注意※1に一致するもの)	購入後6年以内

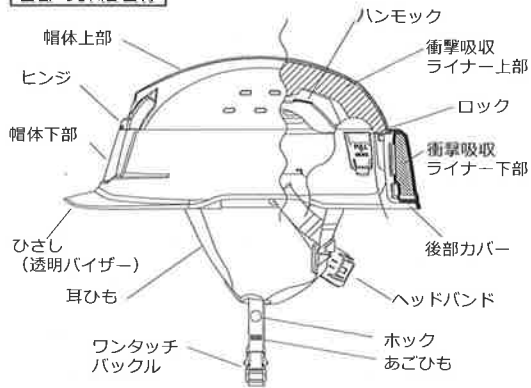
※1. 「防災用ヘルメット」とは、保護帽を防災用ヘルメットとして使用する場合に於いて、工場作業、現場作業等の労働安全衛生規則に関わる場所で使用するものではなく、また、その他の作業等においても使用しないもので、かつ災害時の非常時のみに防災用として使用するものです。また、保管場所は冷暗所とし、1年に一度は点検をしてください。

M **ミドリ安全株式会社**
ミドリ安全

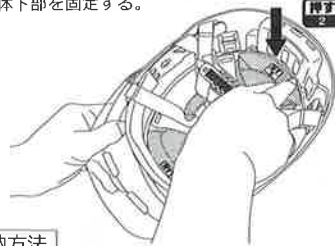
〒150-8455 東京都渋谷区広尾5-4-3
ヘルメット営業部
電話/03-3442-1641 FAX/03-5449-3952
お客様窓口
電話/0120-982-837

「Flatmet3」の取扱い方法

各部の詳細名称

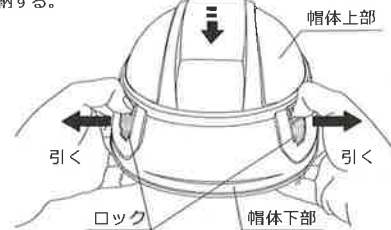


②下図のようにヘルメットのひさし付近を持ち、後方の「押す2」を矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込んで帽体上部と帽体下部を固定する。



収納方法

①下図のようにヘルメットを持ち、「ロック」を左右同時に矢印方向に引いてロックを解除し、帽体上部を帽体下部へ収納する。



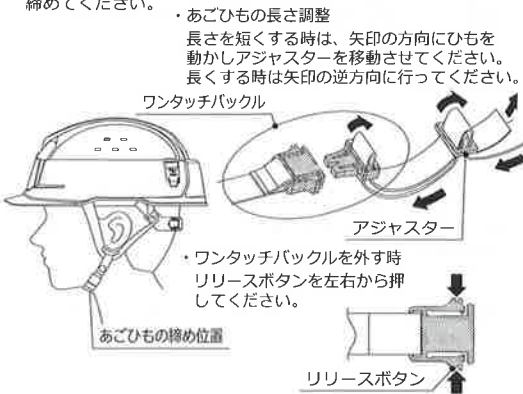
ヘッドバンドの調整方法

●ラチェットの解除ボタンを押すとロックギヤのロックが外れ、ヘッドバンドを緩めることができます。なお、ヘッドバンドは帽体収納時に帽体を保持させるため、ラチェットからロックギヤが外れない構造になっていますので無理に外さないでください。ヘッドバンドが破損する恐れがあります。



あごひもの調整方法

●あごひもは、下図の要領で緩みがないよう、あごの下でしっかり締めてください。

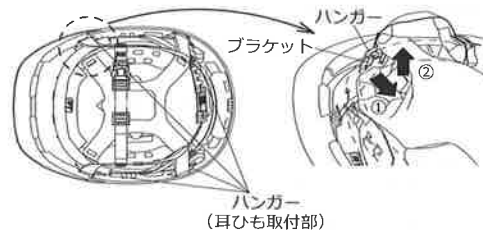


内装の着脱方法

- 内装を交換する場合は、お買い上げの販売店で、同一型式のものをお求めください。
- 内装の着脱を行う場合は、ヘルメットを組み立てた状態で下記の手順に従い、組立ててください。

内装の取外し方

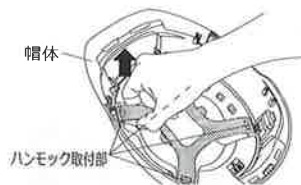
1. 耳ひも取付部（以下、ハンガー）を帽体のブラケットから外す。（4箇所）
 - ・ハンガーの中央部にある溝に指を入れて、矢印①の方向に引いてツメを外す。
 - ・矢印②の方向に押し上げてハンガーを外す。



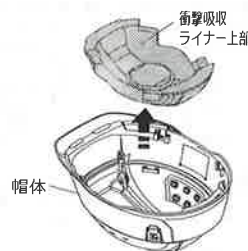
2. ハンガーをヘッドバンドから外す。（4箇所）
ハンガーを矢印の方向に引いてハンガーを外す。



3. ハンモックを帽体から外す。（4箇所）
ハンモック取付部を矢印の方向に引いてハンモックを外す。



4. 衝撃吸収ライナー上部を帽体から外す。

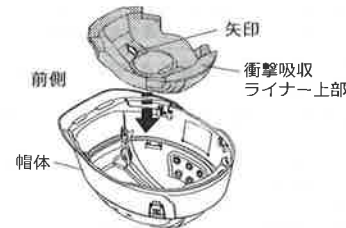


注意

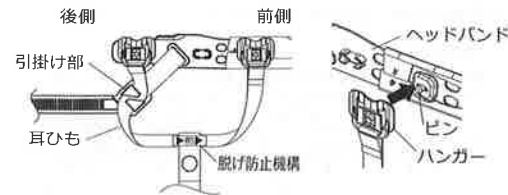
指定以外の部品を使用しないでください。性能が損なわれ、重大な傷害を受ける恐れがあります。

内装の取付け方

1. 衝撃吸収ライナー上部を帽体へ取付ける。
 - ・ハンモックの「前」を確認し、帽体のひさし側の方向に合わせて取付けてください。
2. ハンモックを帽体へ取付ける。（4箇所）
ハンモックの「前」を確認し、帽体のひさし側の方向に合わせて取付けてください。



3. ハンガーをヘッドバンドへ取付ける。（4箇所）
 - ・耳ひもの脱げ防止機構に印刷されている「▶前▶」を確認し、耳ひもの方向に合わせ、ハンガーをピンに取付けてください。
 - ・耳ひもをヘッドバンド後部の引掛け部に取付けてください。
4. ハンガーを帽体へ取付ける。（4箇所）
ハンガーを帽体のブラケットに取付ける。



5. 元どおりに取付けられているか確認する。
内装などが外れないことも確認する。

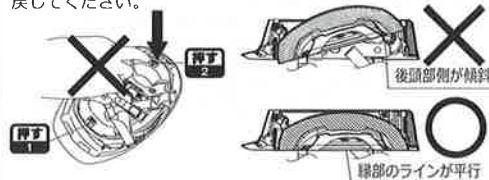


警告

帽体後方左右2箇所の「ロック」が確実に掛かっていることを確認してください。ロックが掛っていない状態で使用すると、ヘルメットの本来の性能が発揮できません。

注意

帽体を組み立ての際、「押す2」→「押す1」の順番で組み立ててください。部品が破損する場合があります。また、帽体が図のように後頭部側が傾斜した場合は、帽体上部と帽体下部の緑のラインが平行になるように戻してください。



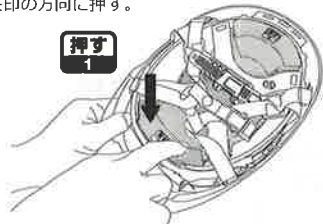
注意

組み立て・収納の際、帽体の隙間に手や指等を挟まないよう十分注意してください。



組み立て方法

①下図のようにヘルメットのひさし付近を持ち、前方の「押す1」を矢印の方向に押す。



※本製品は組立・収納が可能な構造により、帽体上部の表面（ロック付近など）に擦れが生じますが、製品の性能に影響するものではありません。